

二〇二〇年八月一四日

秋高し高原に立つ大風車
路地迷ふ京橋界限秋暑し
婿殿の手作りカレー暑気払ひ
父知らぬとは言え追慕終戦日
一番の働き者よ扇風機
稲光四囲に轟くゲリラ雨

二〇二〇年八月一三日

ポストまで三分の路汗滂沱
坂涼しノーブレイキで風を切る
健さんを掲げ夜店の似顔絵師
三輪山をあまねく照らす秋夕焼

二〇二〇年八月一二日

香煙のくゆる仏間の夜の秋
羽根洗ふ働き詰め扇風機
流れ星手術成功祈りけり
助手席に供花こぼれる墓参かな
竹林の風の呂律の涼しさよ
芋の葉の縁枯れはじめ残暑かな

二〇二〇年八月一日

写し絵の父しか知らず終戦日
晩夏光試合終へたる球児の背
炎天の皆無口なりシャッター街

素 秀

菜 々

はく子

たか子

菜 々

智恵子

せいじ

せいじ

凡 士

明日香

たか子

せいじ

やよい

こすもす

うつぎ

明日香

ぼんこ

凡 士

もとこ

峰雲に手の届きさうハイウェイ

アロハ着ておしやべりやまぬ老人会

肉球を広げて犬の午睡かな

二〇二〇年八月一〇日

午後二時の陸橋にある残暑かな

赤とんぼ草喰む牧の牛の背に

夕涼や夫を迎へにそこらまで

二〇二〇年八月九日

力石に屈めば藪蚊襲ひ来る

手を伸ばす蟬の抜け殻肩車

山羊繫ぐ杭の赤錆晩夏光

藻の花を撮らんとすれば水の綺羅

二〇二〇年八月八日

漁り火の沖に煌めく無月かな

涼しさや黒部の湖の深みどり

古町の路地から路地へ盆の僧

うつぎ

よう子

更 紗

凡 士

智恵子

菜 々

うつぎ

たかを

素 秀

よう子

智恵子

やよい

うつぎ

毎日句会みのる選・二〇二〇年八月一六日